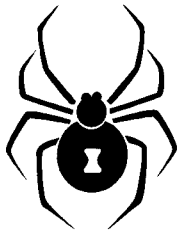


No. 18

2006-5-25

日本蜘蛛学会



トピックス

日本蜘蛛学会
第38回大会(東京都)
のお知らせ

日本蜘蛛学会の第38回大会は2006年8月25日から27日まで、東京都国分寺市にある国分寺駅ビル8階Lホールを主会場として開催されます。多数の参加をお待ちしています。

25日(金) 国分寺市商工会館にて

13:00~ 編集委員会

15:00~ 評議委員会

17:00~ 自然保護委員会

26日(土) 国分寺駅ビルLホールにて

10:00~11:45 一般講演

13:00~14:00 総会

14:00~15:00 一般講演

15:15~17:45 シンポジウム

18:00~20:00 懇親会

27日(日) 10:00~12:00 一般講演

13:00~ 一般講演

(講演数などにより時間が変更される場合があります)

問い合わせ先

〒185-0011 国分寺市本多1-6-6

新海栄一

Tel 042-321-0289

(新海栄一)

日本蜘蛛学会奨励賞

第4回日本蜘蛛学会奨励賞は、東京大学大学院理学研究科学術研究支援員の山崎一憲さんに決定しました。山崎さんの、ヤエヤマサソリの単為生殖のメカニズムや卵形成過程などの詳細な研究が受賞にふさわしいと評価されました。

(前会長 吉田 真)

会長就任にあたってのご挨拶

鶴崎展巨

私はもとよりおそらく大多数の会員諸氏にも青天の霹靂だったことと拝察しますが、2006年4月から3年間、日本蜘蛛学会の会長を務めさせていただくことになりました。およそ会長向きの性格ではないので、この大役にはひるみましたが、私が仕事柄入っている各種さまざまな学会の中では本会に入会してからの期間の長さでも、思い入れの深さでも他とは一線を画しますので、その発展に

いささかでも寄与できることがあれば研究者のはしきれとしてこれ以上の冥利はないと考えお引き受けしたしだいです。微力ながら全力をつくしたいと思いますので、幹事や評議員の方々をはじめとする会員諸氏のご協力とご支援を切にお願いいたします。

さて、挨拶を書けという「遊絲」編集部の言いつけで、本稿を書くにあたって、参考にさせていただこうと思い、6年前の吉田真さんのもの(吉田 2000)を読み返しました。学会としてとりくむべき課題がたいへんうまくまとめられていることに敬服しましたが、同時にこの6年間、それらの課題の解決に吉田さんが真に(No pun intended!)うまく学会をリードされたことにも思い至りました。最近、私にとって印象深かったことは昨年夏の兵庫県豊岡市での大会での口頭発表の充実ぶりでした。和気藹々とした雰囲気の中にも、聞き応えのある発表がそろっていて、本学会の大会にほんとうの意味で学会らしい活気みなぎってきたことに感慨をおぼえました。私のやるべきことは、まずは、この衣鉢を継ぐことであるように思います。

ところで、上述の“思い入れ”の発端である私の本学会への馴れ初めですが、私が中学2年生だった1971年の7月にさかのぼります。その少し前からクモに興味をもちはじめたころ、ざいをはたいて「日本蜘蛛類大図鑑(改訂版)」(八木沼 1968)を入手したら、その中に「中学生でも入れます」という殺し文句の入った東亜蜘蛛学会への入会案内のしおりがはさまっており、それに誘われてすぐさま入会したのです。いまはどうかわかりませんが、私と同年齢あるいは少しうえの年代の方には私と同様に中高生の頃からこ

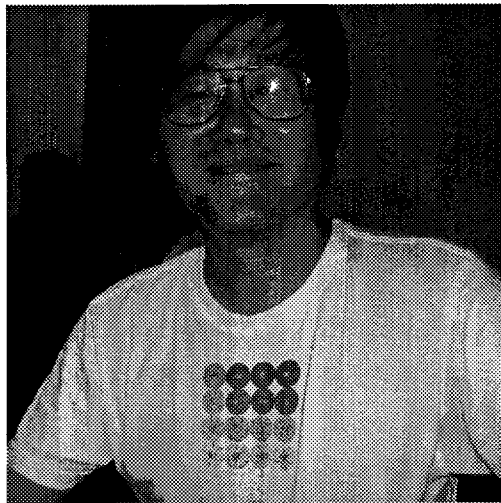
の学会に入会したという方が少なからずおられるはずで、会費を送金した直後に送られてきた最初の学会誌が *Atypus* の Nos.49/50 でした。これは岸田久吉氏の追悼号で、当時高校1年生の新海明さんの書かれたオナガグモの網上の行動の報文や、ご病気で昨年暮れに亡くなられた鳥取市在住の有田立身さんの報文なども載っていました。なお、少し前に使った「衣鉢(いはつ)を継ぐ」などという古めかしい言い回しも、この号で森川国康先生が使われているのを見て覚えたものです(この言い回しを使ってみたのは私のこれまでの人生でこれが2回目です)。その頃の学会を個人的情熱と献身で支えておられたのは故八木沼健夫先生で、このころに真正クモの研究を志した人は多かれ少なかれ八木沼先生の薫陶を受けたと思います。私も例外でなく、その後の数年間は、クモ関係の文献や情報の入手のほとんどを、ときどき送られてくる会誌と私の出した質問の手紙に毎度ていねいに答えてくださった八木沼先生からの返信に頼っていました。ザトウムシは高校に進学してから部活の研究テーマとして始めたのですが、当時、国立大でクモやザトウムシの分類の研究ができそうに思えたところは広島大学理学部くらいしかなかった(それらの情報ももっぱら蜘蛛学会の会誌や会員名簿などをとおして得たわけです)、自ずとそちらに進学することになりました。

高校までは四国の松山、大学在籍中は広島市、大学院進学後は札幌と、私は当時蜘蛛学会の2大活動拠点とみえた(いまでもそうかもしれませんが)大阪と東京からは離れたところにおり、蜘蛛学会の大会に初めて出席し

たのは博士後期課程の2年目だった1981年と、だいぶあとでした。札幌にいた9年間で大会に出席したのはこれをいれても3回しかありません。遠い札幌からの旅費は大学院生の身には過重だったのと、ザトウムシでは研究最適シーズンのまっただ中にあたる8月下旬という大会日程は出席にきつかったからです。この間にだんだんわかってきたことは、日本でクモを対象としてなされた研究で国際的にも引用率の高い業績(発生、染色体、個体群生態学、感覚生理学などの分野にそのようなものがありました)を出している人の多くが、日本蜘蛛学会(当時はまだ東亜蜘蛛学会)とは少し、または完全に、距離を置いており、とりわけ大会にはあまり顔を出していないらしいということでした。私も大会に出席しはじめた頃、日本生態学会や日本昆虫学会などでなら面白がってもらえる内容の発表が、蜘蛛学会の大会では反応が冷ややかでがっかりしたことがあり、その理由の一端はこれだと思いました。

また、この頃、蜘蛛学会の体質(悪い意味でのアマチュア体質といいかえてもいいでしょう)の弱点をもっとも露呈していると思ったできごとは、当時、欧米ではすでに定着した感のあった真正クモの篩板類を単系統群としては扱わない新しい分類体系に対する、日本蜘蛛学会内で真正クモ分類の主導的

立場にあった人たちの冷淡な反応でした。その体系に問題があると考えたら、篩板類が単系統群であることを科学的に立証すればよいわけですが、そのような検証も、その体系がよくないことの合理的な説明もないまま、ただただ篩板類を残すのがいいという信念のようなものだけがひたすら表明されることに大きな違和感を覚えました。ある仮説がある場合、それをデータに基づいて客観的に検証するという科学における基本姿勢の養成がとても弱かったといわざるをえません。結局、この鎖国状態は、表向きには、この状況に業を煮やした(?)谷川明男さんが



ザトウムシ柄Tシャツ姿の鶴崎展巨氏

最初にPlatnickカタログの配列に基づいた日本産のクモのリストを2000年に出版するまで続いたことになりました。学会が発展するためには「井の中の蛙」ではいけません。

さて、いろいろ書きましたが、その頃と比べると最近の当会はずいぶん変わってきたように思います。まず、

以前なら本会に距離を置いていたであろう生態や行動、生理生態、進化関係などで欧米の研究者にまったくひけをとらない仕事をしている人たちが、大会や会の運営に数多く参加してくれはじめています。全分野は無理としても、クモガタ類や多足類を対象に第一線で研究している方にはなるべく多く本学会に関わっていただき、本会が名実ともに日本のクモ学(広義)界・多足類学界を代表し、

それらを支援しているといえる存在になってほしいものです。そのためには、本学会へのコミットメントがそれらの専門家にとってメリットが感じられるものとするのが大事でしょう。

いっぽう、本会のような分類群別学会では、クモや他のクモガタ類・多足類の個々の種の基礎的な生息データ、分布情報を集積し、これを公開してゆくことも重要な責務です。新海明さんや谷川さんらが推進している「県別クモ目録」の作成はその責務を果たす1手段としてとても重要です。じつは、北海道のように島と都道府県境界が一致する場合を別として、行政区画で区切られた県別の目録というのは、もともと研究論文としては成立しにくいものです（この点で、ページ数の問題を別としても、Acta Arachnologica 誌での掲載は特別な工夫がないかぎり難しいだろうと思います）。しかし、クモでも何でもそうですが、既記録種を網羅した県別のリストは、各都道府県のレッドリスト作成を含む地域の環境行政の取組みにも、また、各地でのそれらの動植物の調査研究の活性化にも確実に役立ちます。クモを採集しても、そのクモの記録としての位置づけがわからないとそのデータを報告しようという動機につながらないし、そもそも調査意欲も沸きにくいでしょうから。

さいごになりますが、すでに書きましたように、私が中学・高校生時代に蜘蛛学会（八木沼先生）から文献入手などで受けた恩恵は多大でした。最近ではインターネットの普及、Web での別刷の PDF ファイルとしての公開、コピー機の発達、大学図書館の一般への利用サービスの拡大、個人情報取り扱いの

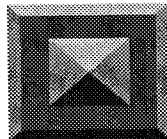
変化などで、昔とは環境が激変しており、かつてと同じようなサービスの提供にどれほど要望があるのかとか、そもそもそれが可能なのか、不透明な点が多々あります。しかし、文献の入手など会員同士の研究環境の改善につながることはできるかぎりの便宜を提供できる環境を整えたいものです。よいアイデアなどあればどしどしお寄せ下さい。

「中学生でも入れる」ほど入会へのしきいは低く、しかし、研究レベルへの理想は高くして、会誌に論文を投稿することがとくに念頭にない人も含めて誰もが会員であることにメリットと誇りを感じてもらえるような学会をめざして運営に微力をつくしたいと思います。みなさんのご助言とご支援を重ねてお願いいたします。

文献

- 谷川明男 2000. 日本産クモ類目録 (2000年版). Kishidaia, 78: 79-142.
- 八木沼健夫 1968. 原色日本蜘蛛類大図鑑. 増補改訂版. 保育社 (大阪市), 197pp.+ 56 pls.
- 吉田 真 2000. 会長就任のご挨拶. 遊絲, 6: 1-3.

(鳥取大学地域学部)



同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期行物の内容、採集会や講演会（総会・例会）の日程などを紹介する。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加

されてはいかがでしょうか。

中部蜘蛛懇談会（代表：緒方清人）

会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行。採集会を年2～4回。総会・研究会を年1回実施。

・採集観察会は、

2006年6月11日（日）

岐阜県可児市「可児市やすらぎの森」

担当者 須賀瑛文

名鉄広見線西可児駅 午前9時44分集合。

2006年9月10日（日）

名古屋市「平和公園」 担当者 柴田良成

2006年11月12日（日）

愛知県岡崎市「岡崎市自然体験の森」

担当者 緒方清人

いずれの観察会も、参加の際には事前に担当者に連絡のこと。

・中部蜘蛛懇談会・三重クモ談話会合同合宿

2006年7月29日（土）～30日（日）

場所 三重県志摩半島

担当者 未定

詳細は後日連絡。

・総会・研究会は2007年2月11日に実施。

・蜘蛛（KUMO）38号（2005. 8. 31発行）
内容は、遊絲17号を参照のこと。

・入会申し込み他

全般について

〒472-0022 知立市山屋敷町東山10-6

緒方清人（代表）

Tel：0566-83-4474

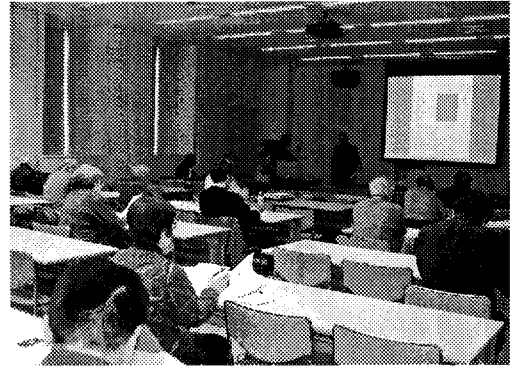
E-mail: neon_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など

〒451-0066 名古屋市西区児玉1-8-24

柴田良成（会計）

Tel：052-522-1920



中部蜘蛛懇談会 2005年度総会・研究会

・会費

正会員 年3000円（高校生以下1000円）

準会員 「まどい」のみ1000円

三重クモ談話会（会長：橋本理市）

会報「しのびぐも」を年1回発行。採集会・合宿・例会などを年数回実施。

・採集会は

2006年6月24日（日）

鈴鹿市西庄内町青少年の森 10時集合

7月29日（土）～30日（日）

三重県志摩半島一帯

（中部蜘蛛懇談会との合同採集会）

9月23日（土）鈴鹿市西庄内町の湿地 10時集合

10月28日（土）鈴鹿市岸岡山、千代崎、鼓ヶ浦海岸 10時集合

11月 未定

・同定会、2007年2月 予定

本年度は鈴鹿市を中心に調査します。参加希望者は必ず1週間前までに事務局に連絡ください。

・総会は、2007年4月に予定。詳細は後日連絡します。

・しのびぐも32号（2005.10.30発行）

武藤茂忠：自宅庭のクモ環境

太田定浩：天春明吉氏採集の標本をみる（その2）

橋本理市：中国吉林省延吉市の蜘蛛
橋本理市：コガネグモの幼体に寄生した蜂
熊田憲一：奈良県宇陀郡曾爾村と御杖村のクモ
三重クモ談話会：2004 年度活動報告

・入会申し込み

〒515-0087 三重県松阪市萌木町7-4

貝發憲治（事務局）

Tel (Fax) 0598-29-6427

・会費 年 3000 円

和歌山クモの会（会長：米田 宏）

会報「和歌山クモの会会報」を年1回発行。

総会・観察会を年1回実施。

・総会・観察会は2006年9月頃に予定。詳細は後日、会員諸氏に連絡します。

・和歌山クモの会会報 No. 14 (2004. 9. 17 発行)

内容は、遊絲15号を参照のこと。会報15号の発行は未定です。

・入会申し込み

〒649-6264 和歌山市西浜465-3

第2小杉マンション1-A

青木敏郎（事務局）

Tel : 090-1072-4414

・会費 年 1000 円

東京蜘蛛談話会（会長：新海栄一）

会報「KISHIDAIA」を年2回、「談話会通信」を年3回発行。採集会年4回・合宿年1回・総会例会などを年2回実施。

・今年度の採集会は、東京都八王子市「片倉城跡公園」で実施します。

2006年 7月 9日（日）

10月15日（日）

2007年 2月18日（日）

JR横浜線片倉駅改札口午前10時30分集合。



東京蜘蛛談話会 2006 年度総会・例会
懇親会の一コマ

または、公園入口（管理事務所付近）に 10 時 40 分。

世話人 木村知之

・合宿は島根県で行ないます。

期日：2006年7月21日（金）～23日（日）

宿泊：島根県大田市温泉津町温泉津口輝雲荘

Tel : 0855-65-2008

費用：1泊3食12000円×泊数+保険等4000円の予定。

申し込み締め切り：6月30日

申し込み、問い合わせ先：

〒192-0352

八王子市大塚274-29-603

新海 明

・例会は、

2006年11月下旬の予定。詳細は後日連絡します。

・KISHIDAIA89号（2006. 3. 31 発行）

追悼 萱嶋 泉先生

新海栄一：前夜式における先生に捧げる言葉

小澤實樹：＜ウッ・ワッハッハな童話作家＞

新海 明：掌のなかで・・・

松本誠治：感謝

小野展嗣：一飯の恩義

中島晴子：萱嶋先生と「ヤモリの歌」

長島忠義：萱嶋先生とペナン

池田博明：萱嶋先生のお話

貞元己良：わが師，萱嶋泉先生を偲んで

萩野康則：三合同例会と萱嶋先生

平松毅久：「仏の顔」の萱嶋先生

DRAGLINES

笹岡文雄：但馬地方のワスレナグモについて

新海 明：オオジョロウグモはセミが「好き」

小笠原幸恵：名古屋市でヨシダサヤヒメグモを

採集

<目録ドラッグラインズ>

仲條竜太：伊豆諸島鵜渡根島のクモ

平松毅久：京都府船井郡八木町のクモ

平松毅久・谷川明男・馬場友希：熊谷市荒川
河川敷のクモ

池田勇介：佐賀合宿追加記録

馬場友希：トカラ列島の中之島・宝島で採集し
たクモ

平松毅久：徳島県南部で採集したクモ

平松毅久・初芝伸吾・甲野 涼：奥秩父のクモ

仲條竜太：文献による徳島県産クモ類目録

仲條竜太・長谷川雅美・一條さくら・植松いの
り・五味真人・土屋裕子・西口永修・深澤悟・
三輪雄佑・松尾梨加・三村慶太・水澤玲子・
黒住耐二：徳島県伊島のクモ類 I

増原啓一：山口県産クモ類目録

入江照雄：熊本県産クモ類目録

初芝伸吾・甲野 涼：東京蜘蛛談話会 2004 年
度観察採集会報告 御岳溪谷のクモ類

谷川明男：徳之島のクモ類採集記録

・入会申し込み

〒186-0002 国立市東 3-11-18-201

(有) エコシス

初芝伸吾 (事務局)

Tel : 042-571-1012

E-mail :

hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

・会費 年 3800 円 (学生 2000 円)

関西クモ研究会 (会長：山野忠清)

会報「くものいと」を年 2 回発行。採集会・
研究会例会などを年数回実施。

・今年度の採集会は、

2006 年 6 月 4 日 (日)

9 月 23 日 (土)

いずれも大阪城公園を予定。

・例会は、2006 年 12 月 23 日 (土) に大阪市
の四天王寺高校で実施の予定。

・くものいと 38 号 (2005. 12. 17 発行)

関根幹夫：コガネグモの水面への落下を避ける
行動について

船曳和代：ゴミグモとゴミグモに付く寄生蜂の
幼虫の寄生状況について

田中穂積：庭で発見されたワスレナグモ 第 3
報—ワスレナグモの不可解な行動？

吉田 真：ヒトエグモ，奈良で発見！

吉田 真：京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県
のセアカゴケグモ

船曳和代：昨年から今年にかけて印象に残った
クモ

吉田 真：計報



関西クモ研究会 2005 年度例会

赤松史憲：古本紹介

関根幹夫：奈良県初記録：ゴマダラヒメグモ
海外の研究トレンド

榊元敏也：視覚以外に振動の情報も利用するハ
エトリグモの求愛行動
クモリスト

西川喜朗：春沢圭太郎氏採集の大阪府中部のク
モ

清水裕行：第2回武田尾採集会報告

加村隆英：枚岡公園採集会の記録

西川喜朗：大阪府枚岡公園のクモ 補足資料

池田勇介：茨木市泉原のクモ

・入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会

Tel：0726-41-9550（加村研）

Fax：0726-43-9432（大学教務課）

会費 年1000円

関西クモゼミ

2006年度は5月28日(日)、10月22日(日)、
および12月17日(日)に行ないます。

連絡先 吉田 真

東京クモゼミ

毎月1回、第1日曜日に千葉県市川市の加藤
宅で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 新海 明 0426-79-3728

または、加藤輝代子 047-373-3344



言いたい！聞きたい！



「クモとカスミソウ」

木野田みはる

クモが害虫になった事例を報告します。

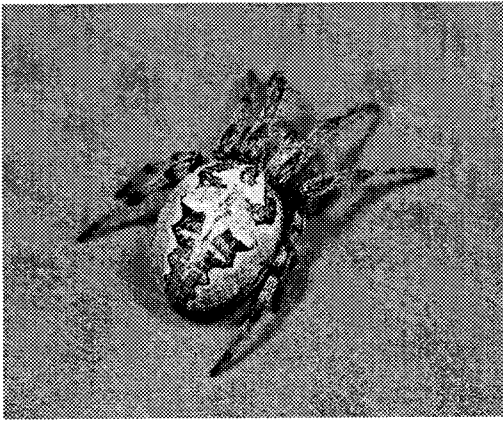
2004年の7月下旬、西津軽郡中里町（現在は中泊町）のカスミソウを栽培している農家から、クモの害がひどくて困るという電話が掛かってきました。状況が想像できなかつたので、7月24日にその農家を訪ねました。収穫時期を迎えた宿根カスミソウ「プリストル・フェアリー」露地の雨よけ栽培50坪と無加温ハウス50坪の全株にクモの痕跡があります。円網は見あたらなかつたのですが、花茎がつづり合わさっていました。その中にあるクモを20頭くらい採集しました。

農家ではすでに何日もかけてクモを捕殺しており、私が採集したのは取り残しのクモです。朝から晩まで二人がかりで1,000頭以上のクモを捕殺した日もあったということですから、大変な大発生です。

カスミソウはクモの糸で花茎が引っ張られたり、つづり合わされたりして、草姿が悪くなり、糸をとっても元に戻らないため、商品価値がなくなり、ほとんど売り物にならないそうです。

ハウスの周辺は湿地に囲まれており、イネ科の雑草の穂をつづり合わせて同じクモがいました。でもどうしてハウスの中で大発生したのかわかりません。

防除対策もわからないので、持ち帰ったクモを1頭ずつビニール袋に入れて霧吹きで殺虫剤をかけてみました。ピレスロイド剤以外は効果



ナカムラオニグモ

がみられず、結構農薬に強いのだとびっくりしてしまいました。

乾燥標本2頭を谷川明男氏（東京大学大学院農学生命科学研究科）に同定していただいたところナカムラオニグモの幼体と雄でした。また、どなただったか失念してしまいましたが、日本蜘蛛学会の方に北方系の代表的なクモで大発生することがあり、モンゴルかどこかの草原で見渡す限りナカムラオニグモしか見つからなかったことがあると教えていただきました。

クモ生理生態事典（編集/池田博明）に水辺、草原に多く、種々の植物の花や茎を折り曲げて住居を作り円網を張って生活するという記載があり、カスミノウの被害も住居を作ったためと納得しました。

2005年にも発生がみられピレスロイド剤を散布して被害を軽減したと聞きました。職場が変わり、なぜ大発生したのか疑問が解けないまま、現在に至っています。

（青森県農林総合研究センターフラワーセンター21 あおもり、現在グリーンバイオセンター勤務）

追補

農林害虫防除研究会 ニュースレターNo.16

(12月発行予定)に投稿しました。日本蜘蛛学会第36回大会（豊橋）で何人かの方にナカムラオニグモについて教えていただきました。ありがとうございます。モンゴルの草原でナカムラオニグモばかりだったという話を伺ったと記憶していたのですが、自信がありません。確かめたかったのですがどなたに教えていただいたのか思い出せません。あやふやな記載をしてしまったことお詫びします。草原のナカムラオニグモについて教えてくださいませんか。モンゴルでよかったのでしょうか。

スズミグモの千葉県での採集記録

久保田克哉

新海（2004）によれば千葉県でのスズミグモの採集記録はないとのことである。しかし、私は今から8年前に千葉県袖ヶ浦市で発見したことがある。新海氏のお薦めもありここに記録しておく。

私が千葉県内で確認したスズミグモの記録は以下の通り。

1997年8月24日

千葉県袖ヶ浦市中袖2の1 東京電力袖ヶ浦火力発電所 上総掘り広場 ♀1

当日は観察会の指導中であつたために、写真等による記録はしていないが、特徴的な姿と網の形からスズミグモであることは間違いなかつた。その数年前に横浜市内でも採集しており、こんなところにまで・・・という印象が強かつた。

千葉県での正式な採集記録はないとのことで、ここに報告して資料としたい。

引用文献

新海 明 2004. スズミグモの全国分布調査
結果. Kishidaia (85) : 13-22.

困ったクモたち

新海 明

「困ったクモたち」といってもムカデ・ヤスデやゲジといった不快な生き物としてのクモを取り上げるつもりなど毛頭ない。遊絲の読者はこれらの虫たちに何ら偏見をもたない、今の日本では希有なほど善良で良識ある方々ばかりなので「困ったクモや虫などはいるわけがない」とお叱りを受けそうである。

私が、ここで述べようと思うのはそんなことではなく、ジグモの一種・赤いハグモ・ユアギグモ・ナルコグモ・ヒメカラスハエトリといった、あまりにも有名な「名無しのクモたち」についてである。読者の中にはユアギグモやナルコグモさらにヒメカラスハエトリが「名無し」であることさえいぶかる方もいるかも知れない。現に図鑑などにも紹介されているからだ。これらのクモたちが何故に困った存在なのかといえ、ば、「分類学的には、存在しないクモだからである」。これらはいずれも新種候補とみなされている。ところが発見されてすでに何十年も経っているものがあるにもかかわらず、未だに記載されていないのである。これが、めったに採集されなかったり、一部の地域のみ分布するような稀産種だったり、小さなサラグモ類やヤチグモ類のように区別が容易でないものなら、まだ困ることも少なからう。我々の認識外にあれば俎上にのぼり話題になる可能性も少ないからである。しかし、ここで紹介したクモたちは、日本各地で結構普通にみられるものばかりであるからやっかいである。すなわち、各地のクモのリス

トによくでてくるのだ。「○○sp.」としてである。場合によっては和名だけで掲載されていることすらある。

私もかつて自分で作成したリストに、コサラグモの一種①とか②などと並べたことがある。雌雄の成体がそろい新種であることが確実であるからということでもリストに加えてしまったのだ。その採集地での種類数を増やしたいという願望もあった。しかし、これはやはりまずい。第三者にとってこのクモの実態はまったく不明であるからだ。そして、このようなリストは発表されてから時が経てば経つほどやっかいな存在となっていく。後の研究者がそのリストをみたときに、これらのクモが何者なのかがわからなくなってしまうからだ。私はあるとき戦前のリストを見ていると「エチゴアサヒ」というハエトリグモに出会ったことがある。とても印象に残る面白い和名だと思うのだが、学名もなくまったくの謎のクモである。これは一体何者なのだろうか。やはり、和名だけでなく学名をそろえて記録するという事は、リスト作成にあたっての最低限のルールであろう。今後のリストの作成にあたって、私もこのことを肝に銘じておきたい。

では、これらの困ったクモたちの問題はどのように片付けたらよいのだろうか。「誰かが記載して発表すれば済むことさ」と言われればその通りなのだが、困った問題は分類学者間の心理にもあるようだ。あのクモは誰々が書くはずだという、いわゆる「先取権」の問題が存在するのだという。だから、誰も書かないのなら私がやりますとはいかないのである。この困難を解決する手段は国際命名規約上にすでに明記されているのだという（以下の注を参照のこと）。すなわち、「書くぞ」と思った方が新種として記載する旨を宣言してしまえばよいのだ。ただし、1

年間の猶予期間が必要であるという。しかしながら、これで問題が片付くことはなさそうだ。研究者仲間は互いに顔見知りである。もっともやっかいな心理的な障壁は、「私にも、書きたいけれどまだ書いてないクモがある」。だから、「あなたのクモには手をださないから、替わりに私の方にも手をださないでね」といった感じのものであるようだ。さらに「そんな手間暇のかかる記載は面倒だから、できるならやりたくない」といった単純なものもあろう。後者は私のようなアマチュアの研究者心理の代表のように思う。そして、これらの心理が払拭されないかぎり、困ったクモたちは永久に日の目をみない可能性さえありそうだ。もっとも良いのは、最初の発見者あるいは「先取権者」がすぐにも記載して発表することである。私があえてこのような一文を書いたのも、ぜひともこれらの方々に残した仕事を早く片付けて欲しいと願ってのためである。これこそが最善の策であることは疑いない。

何年か待ち、それでも「名無しのクモたち」が相変わらずであった場合には、顰蹙と侮蔑の眼を浴びせ掛けられながらも、私のような分類の門外漢が掟破りを承知で、何らかの方策を講じて記載するしかないのであろうか。なにかこの他によい知恵があればぜひともアドバイスをお願いできれば幸いである。

本稿をまとめるにあたり、国際動物命名規約に関する情報は谷川明男さんに教えていただいた。ここに御礼申し上げる。

(注) 国際動物命名規約 付録A倫理規定の2.

動物学者たるものは、別の人物が同じタクソンをすでに認識していて、それに対する学名を設立しようとしていると信ずるに足る理由があるならば、新学名を公表するべきではない。そ

ういう場合、その人物（もしくは代理人）に連絡をとるべきであり、しかるべき期間（1年間以上）内にその人物がその学名を設立できなかったときに、はじめて新学名を設立する自由があると考えるべきである。

有田立身さん（1937-2005）の 蔵書と標本

昨年（2005年）12月24日に亡くなられた有田立身（たつみ）さんですが、ご遺族の亀井泉さんのご厚意により有田さん所蔵のクモ標本とクモ関係のご蔵書文献一式をいただいて参りました。文献リストはデータベース化できしだい公開し、必要な方にはコピーなどのサービスを提供したいと思います（ダンボール10箱ほどあるので、少し時間がかかります）。また、標本は、データを有田さんと共同で作成準備中でした鳥取県産クモ目録に生かし、適切な場所に保管を委ねるつもりです。なお、この件に関しましては、江原昭三先生にお骨折りいただきました。

（鶴崎展巨）

「タランチュラのからだ」 を訳しました

八幡明彦

講談社から、「立体モデル大図鑑 タランチュラのからだ」（ISBN4-06-259055-7 2800円）が昨年末、出版された。2004年アメリカで出版された「UNCOVER TARANTULA」の訳書で、著者のDavid George Gordon氏は「Field Guide to the Slug」「ゴキブリ大全（日本版）」などの著書や、昆虫料理家としても著名である。



タランチュラのからだ

「UNCOVER・・・」シリーズは、大判の絵本に大きなプラスチック製の模型が埋め込まれており、頁をめくると動物の身体を表皮から内部器官、筋肉、骨格など模型で眺めながら、豊富な挿絵のある解説を読めるしくみである。すでに日本で「ヒトのからだ」「恐竜のからだ」「サメのからだ」が出版されており、第四弾として無脊椎動物のクモが選ばれた。

翻訳にはずいぶん苦労した。小学校中級以上対象といいながら、その内容は、生理学・行動学的にかなり詳細に述べられており、直訳すればとても小学生が自分で理解できるレベルではないが、書肺の構造をラジエータに、体液圧により脚を伸ばすしくみを風船に例えるなど、分かりやすい比喩を試みている著者の努力はさすがだと思う。クモの解剖学的な用語については、吉倉真「クモの生物学」を大いに参照した。また、タランチュラ類は外国の特殊なクモであることから、なるべく日本にすむクモ全般への興味に繋がるように、随所に日本のクモについての記述などを書き加えた。絵本の翻訳というのは、すでにイラストが決まっており、その間に

はめ込まれた文章量と配置も決定されているので、かなり制約の大きい中での「改訳」であったが、それはそれで楽しかった。

東京クモゼミのメンバーには草稿段階で目を通していただき、貴重な意見をいただいた。訳書に謝辞を載せることができなかったので、ここに感謝したい。「タランチュラのからだ」は、大きな書店の生物学または「へんな生きもの」コーナーなどで扱っていると思う。

採集情報

日本各地で採集された、稀産種や分布上の重要種などについての情報を掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

ボカシミジングモ

鹿児島県指宿市池田湖周辺、2003年6月23日、1♀、馬場G.友希採集（鹿児島県新記録）

ムツトゲイセキグモ

茨城県つくば市観音台、1998年9月6日、1♀、田中幸一採集（茨城県新記録）

オオセンショウグモ

愛知県名古屋千種区不老町名古屋大学構内、1982年、1♀、田中幸一採集

カワラメキリグモ

神奈川県相模原市上大島、2006年2月26日、1♀、谷川明男採集（神奈川県新記録）

クロサワフクログモ

鹿児島県奄美大島大和村名音川，2006年1月25日，1♀，亘D.悠哉採集（奄美大島新記録）

ホシドリヒメグモ

佐賀県佐賀市富士町杉山，2001年7月14日，2♀，馬場G.友希採集（佐賀県新記録）

ヒメアシダカグモ

愛媛県上浮穴郡久万高原町土小屋（石鎚山），2000年5月4-5日，2♀，馬場G.友希採集（愛媛県新記録）

ヤマトガケジグモ

沖縄県石垣市名蔵，2004年2月28日，1♀，馬場G.友希採集（石垣島新記録）

カラカニグモ

沖縄県石垣市名蔵，2004年2月28日，1♀，馬場G.友希採集（石垣島新記録）

イシサワオニグモ

佐賀県唐津市七山村檜原湿原，2001年10月19日，1♀，馬場G.友希採集（佐賀県新記録）

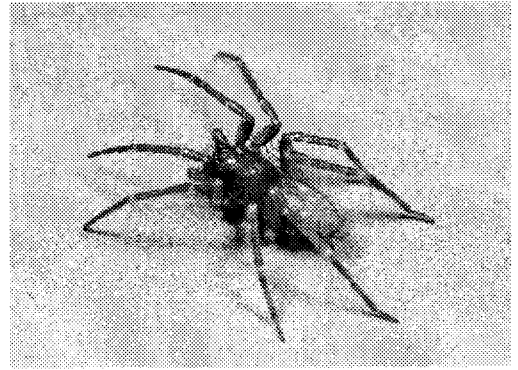
アカギメキリグモ

長野県佐久郡南相木村村道臨幸線，2003年6月5日，1♂，藤澤庸助採集，加村隆英同定（長野県2例目）

ミヤマシボグモモドキ

長野県南佐久郡南相木村三川相木川上線，2005年6月17日，1♂，藤澤庸助採集，同定（長野県新記録）

フジサワヒメグモ



クロサワフクログモ

長野県南佐久郡相木村天狗山山頂付近，2005年7月15日，2♀1卵のう，藤澤庸助採集同定（長野県2例目）

ダンダラオニグモ

北海道音別町，2005年8月10日，2♀，石田裕一採集（北海道新記録）

ジグモ

北海道森町，2005年8月25日，3♀，石田裕一採集

チリイソウロウグモ

栃木県足利市多田本町，2005年7月30日，1♀，山野井貴浩採集（栃木県新記録）

ドウシグモ

熊本県五木村 [斜面林縁（2箇所）および新竜泉寺、阿蘇神社]，2005年5月13日，♀♂（合計23個体確認），八幡明彦採集

環境：明るい広葉樹林縁の樹幹のママツタ上

ホウシグモ

鹿児島県蒲生町住吉池公園，2005年5月8日，1♂，八幡明彦採集

環境：針葉樹林内の明るい林床

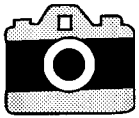
チビクロドヨウグモ

鹿児島県蒲生町住吉池公園 2005年5月8日,
1♀1♂, 八幡明彦採集(鹿児島県新記録)
環境: 針葉樹林内の明るい林床、伏流になった
小流の地下トンネル状の内部天井付近に造網

ミヤシタイソウロウグモ

島根県大田市温泉津町, 2006年5月5日, 1
♀1y, 新海 明採集.

(新海 明・谷川明男集約)



ギャラリー



『オオヒメグモの卵のうに取り付いているクロ
マルイソウロウグモ』

オオヒメグモの母親はまったく気づかずに網
にかかった獲物を捕食している。(谷川明男)

編集後記

今年の冬は北陸を中心に豪雪となりました。春の歩みもいくぶん遅かったような気がします。ゴールデンウィークを利用して、山陰地方を旅行してきました。サガオニグモ

やユノハマサラグモなどが活発に活動して
いましたが、なぜか関東地方で普通に豊産
するクスマサラグモがまったく見られません
でした。個体数を踏まえた分布調査の重要性
を痛感しました。ここは夏に東京蜘蛛談話会
の合宿で再訪することになっています。夏に
はどのようなクモ達に出会えるのでしょ
うか。楽しみです。(新海 明)

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j. asahi-net. or.
jp (谷川明男) まで

発行は、年2回(5月, 11月)の予定。締切
は発行月の前月末日です。

日本蜘蛛学会

入退会は

庶務幹事

〒520-0062 大津市大谷町 6 D-6

樹元敏也

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18 / 203

(有) エコス

初芝伸吾

E-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

Tel 042-501-2651

年会費 正会員 7000 円(学生は 5000 円)

郵便振替口座 00970-3-46745

遊絲 第 18 号

2006 年 5 月 25 日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 鶴崎展巨